

研究区分	教員特別研究推進（教育推進）
------	----------------

研 究 テーマ	Digital Transformation（DX）を用いた老年看護学教育の新たな価値と創造				
研究組織	代 表 者	所属・職名	看護学部・特任教授	氏名	鈴木 みずえ
	研究協力者	所属・職名	看護学部・准教授	氏名	小池 潤
		所属・職名	看護学部・助教	氏名	枝 晃司
		所属・職名	浜松医科大学	氏名	稲垣 圭吾
	発 表 者	所属・職名	看護学部・特任教授	氏名	鈴木 みずえ

講演題目
Digital Transformation（DX）を用いた老年看護学教育の新たな価値と創造
研究の目的、成果及び今後の展望
【目的】近年、DXに関する国内外のエビデンスやシュミュレーション教育の報告は急増している。本研究で老年看護学の学習モデルを再検討し、DXによる体験学習や本人の視点からのアプローチ方法を用いることで、老年看護学の教育における新たな価値や方法を創出していきたい。 【方法】医学中央雑誌及びMedlineを検索して文献レビューを実施した。 【結果】その結果、主に①eラーニングやオンライン教育の活用、②AI・ビッグデータ・シミュレーション技術の導入、③教育と臨床の連携強化、④倫理的・社会的課題の検討の4点に整理される。 まず、eラーニング教材の活用に関する研究では、学生の主体的学習や臨床判断能力の育成に一定の効果が認められており、特に予習・復習を含む反転学習との組み合わせにより学習効果が高まることが示唆されている。一方で、教材のみでは高度な臨床推論能力の獲得には限界があり、対面教育や実習との統合が重要であるとされている。 次に、AIやVR（仮想空間）AR（拡張空間）、ロボット技術などの先端技術の導入により、老年看護特有の複雑なケア（例：認知症ケアやコミュニケーション技術）の可視化や個別化学習が可能となり、従来の教育では困難であった体験的理解を補完する新たな教育価値が創出されている。また、オンライン世代間交流や表情分析などのDX活用により、実践的かつ多様な学習機会が拡張している。 さらに、DXは教育と臨床現場の連携を強化し、学生・教員・臨床指導者がデジタル基盤で結ばれることで、学習の連続性と一貫性が高まると報告されている。これにより、老年看護学におけるコンピテンシー基盤型教育や学習者主体の教育への転換が促進されている。一方で、DX推進には倫理的・法的・社会的課題（ELSI）も指摘されており、特に高齢者ケアにおけるAIやロボットの導入には、尊厳や人間性への配慮、コスト、現場の受容性などの課題が存在する。 【考察】DXは老年看護学教育において、単なるICT活用にとどまらず、教育方法・内容・学習環境を変革し、臨床判断能力や個別化ケア能力の向上に寄与する新たな価値を創出している。一方で、その効果を最大化するためには、教育設計の再構築と倫理的配慮を含めた包括的な導入戦略が求められる。特に、コルブが提唱した経験学習モデルなどを参考に「仮想空間などDXによる経験→内省的省察（失敗・成功の経験からの学び）→教訓する（行動を概念化する）→積極的な実践（得られた考察と理論の施行）」のプロセスを通して、AIを活用して認知症の人の体験を実践現場で活用することの意義や省察から得られた概念化など、老年看護学教育方法の発展が示唆された。